

「第2期関西広域スポーツ振興ビジョン」(中間案)への ご意見に対する関西広域連合の考え方について

「第2期関西広域スポーツ振興ビジョン」(中間案)について実施した意見募集の結果は、以下のとおりです。

ご意見をお寄せいただいた方に厚く御礼申し上げます。

1 意見募集の概要

- ①意見募集の期間 令和3年11月4日(木)～30日(火)
- ②意見の提出方法 郵送、ファクシミリ又は電子メール

2 お寄せいただいた意見 15件

3 ご意見に対する考え方

いただいたご意見に対する関西広域連合の考え方は別紙のとおりです

「第2期関西広域域スポーツ振興ビジョン」（中間案）に関する府県民意見等を募集した結果、4名から延べ15件（うち意見の公表を望まないもの0件）のご意見・ご提案をいただきました。いただいたご意見に対する関西広域連合の考え方は下記のとおりです。

1 ビジョンの内容に対するご意見について

番号	件数	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方（下線は追記した箇所、取消し線は削除した箇所）
1	①	<p>【スポーツ活動を取り巻く環境変化を踏まえた本ビジョンの位置づけについて】 第2期ビジョンでは、第1期ビジョンの基本的な考え方を踏襲し、関西が実現を目指す3つの将来像を踏まえた戦略が記載されていますが、スポーツをめぐる環境が大きく変化しており、とりわけ、新型コロナウイルス感染症拡大が、国や地域、スポーツ界、人々の意識や行動に大きな影響を与えています。 こうしたことから、中間案の本文「はじめに」の部分で、第2期ビジョンの位置づけ、考え方（第1期ビジョンを継承するところ、新たな課題として取り組んでいくところ）等を、もう少し書き込んではいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見を踏まえて、第2期ビジョンの位置づけとして、本文「はじめに」の3段落目冒頭に「<u>第1期ビジョンの3つの将来像と3つの戦略を継承しつつ、</u>」と追記します。 第2期ビジョンの考え方として、新たな課題である府県市民のスポーツ参画に大きな影響のあった新型コロナウイルスの感染拡大について、「ウイズコロナ・アフターコロナ時代のスポーツ施策に取り組む」とした上で、戦略Ⅰの②主な取組の具体例として、「<u>新型コロナウイルスの影響が少なく取組めるデジタル技術を活用したスポーツイベントの開催</u>」を掲げています。 また、第2期ビジョン策定期間中に開催される「大阪・関西万博」や「ワールドマスターズゲームズ関西」の機会を捉え、「健康的・活動的な地域社会づくり」をさらに推進することに取組みます。</p>
2	②	<p>【経済界との連携について】 中間案11ページでは、「④地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援」の中で経済界と連携した取組例が記載されています。うち、「企業所属のアスリート派遣」については、どのようなものかわかりにくいように思います。「企業所属アスリートのスポーツ大会・イベント等への派遣」といった表現とされては如何でしょうか。</p>	<p>ご意見を踏まえて、戦略Ⅰの④「地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援」に「<u>企業に所属するアスリートのスポーツ大会・イベント等への派遣</u>」と追記し、トップアスリートによる地域スポーツの振興を図ります。</p>
3	③	<p>【スポーツ人材の育成と活用について】 中間案5ページ「1 スポーツをめぐる現状と課題（4）スポーツ人材の育成と活用 ②課題」において、「競技力の向上に向けたスポーツ医科学の知見も活用して」という文言を①のアスリートの育成、②の指導者・トレーナーの育成に関し言及いただくことを提案いたします。 背景として、関西には、スポーツ医科学分野で豊富な知見や先端施設等を有する大学（一例として、大阪大学医学部、大阪体育大学、立命館大学スポーツ健康科学部、和歌山県立医科大学げんき開発研究所）や京都トレーニングセンター、大手スポーツ用品メーカー等が集積しており、ジュニアアスリートから国際大会で活躍するトップ選手まで、幅広い支援を行っています。そこで得られたデータや知見は、けがの予防をはじめ、人々の健康増進にも活用されており、今後、競技力強化に取り組む自治体や体育・スポーツ協会を含め、関西の関係機関が広域的な連携を強化しつつ、スポーツ医科学の知見を活用したアスリートや指導者・トレーナーの育成を図っていくことは、関西のスポーツ振興を図るうえで重要な意味を持つものと考えます。 関西広域連合第4期広域計画の取組方針においても、「スポーツの聖地関西」の実現に関し、「構成団体が連携したアスリートの育成、スポーツ指導者の育成や情報の共有化、審判等養成講習会の共同開催等、スポーツ医科学研究等の知見も活用してスポーツ人材の育成を図る」（21ページ）との記載が盛り込まれています。「スポーツ医科学研究の推進」（中間案13ページ）で得られた成果・知見等を実際に活用していくことが重要と考えます。</p>	<p>ご意見を参考にして、戦略Ⅱの⑥「スポーツ人材の育成」の中で、「<u>スポーツ医科学研究等の知見も活用したアスリートの育成に繋がる指導者・トレーナーの育成、</u>（中略）スポーツ人材育成講習会等の共同開催の実施を検討する。」と記載します。 これにより、スポーツ指導者を対象とした講習会等で、関西のスポーツ医科学分野における専門的な知見や施設などを活用した取組みを推進し、スポーツ人材の育成に繋げていきます。</p>

4	④	<p>【スポーツ人材の育成について】 児童や学生、社会人など多くの府民がスポーツに関心を持ち、様々な形でスポーツ競技大会に参加する為には、スポーツ人材の育成が必要ですが、女性の選手や審判、運営ボランティアなどが、スポーツに積極的に参加する上で女性のスポーツ団体役員、監督、コーチなどの指導者の人材育成、登用が必要だと思えます。「東京2020オリンピック・パラリンピック」では、サッカー日本女子代表チームに高倉麻子監督が、バレーボール日本女子代表チームに中田久美監督が就任し、指揮をとってきましたが、オリンピック・パラリンピックが閉幕した今、開催の是非や運営、競技全体について検証し、今後、学校や社会人、地域におけるスポーツ競技にどう反映するのかを考える中で、高倉麻子監督、中田久美監督に続く女子スポーツチームの女性スポーツ指導者の育成、登用が、女子選手が抱える問題や要求を提議する機会を与え、多くの女性が、そして女子選手がスポーツ競技を継続できるのではと思えます。 今まで多くの女子選手が結婚、出産、育児といった生活環境の変化や人生の節目を迎える中で引退し、スポーツ競技から退く姿を見てきましたが、女子選手として、一人の個人としても充実した人生を過ごしていただきたいのです。 女子選手の御家族を支援し、女子選手が競技に専念できるようにすると共に、選手の理解者である女性指導者の育成や、スポーツ競技におけるジェンダー平等のあり方を考えなければならぬでしょう。</p>	<p>ご意見いただきましたように、女性のスポーツ団体役員、指導者の人材育成については大変重要な要素であることから、戦略Ⅱの⑥「スポーツ人材の育成」に「女性のスポーツ参画促進に向けた団体の女性役員の増加や女性指導者の育成のための方策、(中略)を検討する」と追記します。 関西広域連合では、スポーツ指導者講習会で「女性アスリートの指導について」をテーマとしたシンポジウムを行っており、今後は女性指導者育成に向けた取組も進めます。 また、第2期ビジョンから戦略Ⅰの②「中・高年のスポーツ振興」のなかに、「スポーツを通じた女性の活躍を促進するため、スポーツイベント等の企画や参加形態、情報発信の充実などの方策を検討し、女性のスポーツ参画を推進する」と記載しており、引き続きスポーツを通じた女性の活躍促進に向けて取組みます。</p>
5	⑤ ⑥	<p>【再延期となったワールドマスターズゲームズ(WMG)の開催について】 WMGについて、第2期ビジョンの最終年度に当たる2026年5月開催を目途に大会が再延期となったことを踏まえた記載となるよう、工夫が必要と考えます。 例えば、中間案6ページでは「WMGの開催により創出されたレガシーを継承するとともに」との記載がありますが、まずは大会の成功に向けた取り組みを進め、大会後に継承・発展を図っていくレガシーの創出に取り組んでいく5年間となります。 そこで、関西広域連合としては、WMG組織委員会等と連携し、大会の成功に向けた機運醸成の取り組みに加え、大会開催を契機とする競技開催地での聖地化やスポーツツーリズム振興、生涯スポーツ振興など、大会レガシーの「先取り」となるような各地の取り組みを掘り起こし、その盛り上げと定着に対する支援を期待します。</p>	<p>ご意見を踏まえ、戦略Ⅱの⑦「国際競技大会等のレガシー(有形・無形の遺産)の創出及び継承・発展」とし、「レガシーの創出」を追記しました。 また、ワールドマスターズゲームズ2021関西を再延期することが決定したことにより、次のとおり本文を修正します。 「このため、まず、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催に向けて大会を成功させることに傾注するとともに、各種の生涯スポーツ大会への参加を勧奨するため、ワールドマスターズゲームズ関西の開催を記念し制定した「関西スポーツの日」「関西スポーツ月間」を中心にスポーツイベント等の実施や「関西マスターズゲームズ」を創設し、ワールドマスターズゲームズ関西の大会理念であるインクルーシブな視点を取り入れて開催するなど、ワールドマスターズゲームズ2021関西の成果を一過性のものに終わらせることなく、次世代へ引き継ぐレガシーの創出や、大会後におけるマスターズスポーツに関する基盤づくりの継承を通して、聖地化へと発展させていく。」と記載し、具体的な事案をWMG組織委員会等と連携して実施し、大会成功に向けた機運醸成やレガシー創出に取り組めます。 その他、本文中のワールドマスターズゲームズ2021関西に関わる箇所については、2026年5月開催を想定して修正します。</p>
6	⑦	<p>【「障害者版」総合型地域スポーツクラブの新設と推進】 総合型地域スポーツクラブは「子供から高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」(スポーツ庁ホームページより)と書かれていますが障害者(身体、知的精神障害問わず)が総合型地域スポーツクラブに参加するにはクラブ側の理解やノウハウなどなかなか難しい面があるのではないのでしょうか。 そこでスポーツ推進ビジョンには障害者のための総合型地域スポーツクラブの新設と推進を明記したほうが良いと思えます。 「障害者版」総合型地域スポーツクラブを新設し、例えば障害者スポーツ指導員を配置することによって障害者が新たにスポーツにふれあい参加する可能性があると思えます。</p>	<p>関西広域連合は、健常者と障害者がともにスポーツ活動に参加できる総合型地域スポーツクラブの運営を推進していることから、ご意見いただきました「障害者のための総合型地域スポーツクラブの新設と推進」については、現在本ビジョンへの記載は考えておりません。 今後も、戦略Ⅰの③障害者スポーツの振興に記載している「地域のスポーツ指導者を対象とした障害者の特性に応じた指導者養成等に取り組むことにより、障害者が気軽にスポーツに参加できる機会を拡充する。」などを踏まえ、総合型地域スポーツクラブにおける障害者スポーツの推進について取組みます。</p>

2 目標達成のための戦略について

番号	件数	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方
7	⑧ ⑨	<p>【広域課題【戦略Ⅰ】③障害者スポーツの振興】 性別、障害の有無を問わずライフステージ、ライフスタイルに応じたスポーツ活動を支援するために、スポーツができる環境の整備（周辺地域及び施設内設備（脱衣所、トイレ、シャワー室、浴室等）のバリアフリー化と障害者スポーツの普及（先の東京オリンピック・パラリンピックの盛り上がりをもとに、強化種目以外のさまざまなパラスポーツを紹介、普及）及び障害者スポーツに対する理解と教育（一般の小中高の体育教育に取り入れ）の取り組みは当然で、一般健常者・障害者がともに気軽に参加できる機会を拡充して欲しいです。</p> <p>また、障害者の全国大会もほとんどの競技が脊髄損傷以上のクラスのみでの参加を規定しているので、その枠を外し脊髄損傷も肢体不自由（両下肢）なのに、上肢が可動して握力もあるということに参加できないという判断はなくして欲しいです。</p>	<p>東京パラリンピックの開催による機運の高まりを踏まえ、第2期ビジョンでは、「障害者スポーツに対する理解促進や普及を図るための体験会等の実施」や「「関西マスターズゲームズ」を創設し、ワールドマスターズゲームズ2021関西の大会理念であるインクルーシブな視点を取り入れて開催する」と新たに記載しています。</p> <p>ご意見いただいたように、健常者と障害者がともに気軽に参加できる機会の拡充に取り組めます。</p> <p>また、障害の種類や程度に応じて、公平な競争を実現する「障害区分」については、主催団体が決定しています。関西広域連合では、より多くの障害者の方が大会に参加できるよう、引き続き、障害者スポーツ体験会や障害者スポーツアスリート育成練習会に組み込み、すそ野の拡大を図っていきます。</p>
8	⑩ ⑪ ⑫	<p>【障害者専用スポーツ施設の新たな増設・新設と既存施設の利便性向上】 関西各地には大阪市の障害者スポーツセンターを始め障害者専用スポーツ施設があります。しかし、人口が多く交通の便が比較的良好な障害者スポーツ施設は体育館を中心に抽選率が高くなかなか予約が取れないのが現状です。</p> <p>そこで府県または主に政令指定都市・中核市主導の元、体育館を中心に増設または別の場所に新設し増加する利用者に対して受け入れる体制が必要かと思えます。</p> <p>一方で既存施設の中には交通の便が悪く知名度が低い障害者スポーツ施設もあります(京都府山城地域にあるサン・アビリティーズ城陽など)。</p> <p>⑪ そうした障害者スポーツ施設にも送迎バスの運行など利便性を向上させ障害者に対して利用しやすいようにすべきではないでしょうか。</p> <p>⑫ また、主に市が所有している障害者スポーツ施設の中には利用者はその市に在住・在勤・在学している者やそれらの者で構成されている団体のみ利用可としているところもあるのではないのでしょうか。</p> <p>⑫ そうした制限を取っ払い、近接する市町村の障害者に対しても利用できるようにすべきです。</p>	<p>関西広域連合では、ビジョンの実現に向けて、構成府県市が連携した一体的な取り組みを推進することとしています。</p> <p>戦略Ⅰの③障害者スポーツの振興に、「障害者のスポーツ参画を促進するため、体育施設及び交通アクセスも含めた施設周辺地域全体のバリアフリー化（中略）の推進を継続していく。」と記載しています。</p> <p>ご提案いただいた⑩体育館を中心とした増設や新設⑪送迎バスの運行など輸送の利便性向上⑫障害者スポーツ施設（主に市立）における市外者等に対する利用制限の撤廃については、各施設を設置する自治体の所管するところであると考えます。</p>
9	⑬ ⑭ ⑮	<p>【広域課題【戦略Ⅱ】スポーツの聖地関西の実現に向けた戦略について】 関西の陸上（特にマラソン選手、中・長距離選手）選手向上及び育成と対関東（箱根駅伝）に並ぶ駅伝、マラソンの大会招致及び支援を提案したいです。</p> <p>正直、短距離以外の陸上種目は関東に負けている感じがします。全国大学駅伝、出雲駅伝では関西勢はなかなかベスト10位まで入れず、関東の各大学（箱根出場校も含む）の下に位置して立命館大学が唯一肉薄するところまで行くが、いかんせん関東のチームに勝ていない感じがします。</p> <p>⑬ そもそも各陸連のシーズン設定が異なっていて、関東は箱根駅伝が各大学はピークを迎えるようトレーニングやインカレを、大会で調整するが、関西では正直箱根駅伝のようなモチベーションを高める大会がないですね～。</p> <p>せつかく高校、都道府県対抗駅伝を誘致しているが上位有力校は関東の大学へ進学し箱根を目指す選手が多いです。</p> <p>箱根と同じ各区間起伏が多いコースなど、例えば長居をスタートして生駒を越えるルートや、神戸（ユニバ、メリケン広場、県庁前）をスタートして、須磨、明石、または西神、六甲方面でゴールする等、故金栗四三氏の理念に基づいた駅伝大会を関西で行えば関西陸上界のレベルアップになると思います。</p> <p>決して関東勢（箱根出場校）の調整大会とさせてはいけないと思えます。</p> <p>⑭ またびわ湖毎日マラソンの代替えの国際大会の開催（男子）</p> <p>⑮ 車イスマラソンの開催の誘致を提案したいです。</p>	<p>関西広域連合では、ビジョンの実現に向けて、構成府県市が連携した一体的な取り組みを推進することとしています。</p> <p>関西においては、関西学生陸上競技連盟が主催する「関西学生対校駅伝競走大会」が京都府で行われています。</p> <p>また、「全国高等学校駅伝競走大会」や「全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」、「全国車いす駅伝競走大会」が京都市で行われるなど、関西は駅伝が盛んな地域です。</p> <p>今後も関西広域連合では、各種駅伝大会に加え、関西各地で開催されるマラソン大会や車いすマラソン、車いすロードレースなどに関して、本連合ホームページ等を活用して広く周知します。</p> <p>なお、令和2年度の関西広域連合スポーツ指導者講習会では、箱根駅伝でも活躍されている青山学院大学の原晋監督をお招きし基調講演としてお話いただきました。</p> <p>今後も関西の陸上競技をはじめ各種スポーツ選手の育成に向けて、具体的な事業を検討します。</p> <p>びわ湖毎日マラソンの代替えの国際大会の開催については、主催者の所管するところであると考えます。</p>